

これからの100年の礎となる 飛躍の年にしていきます



平成14年度の市政を運営するための当初予算案がまとまり、3月1日から開かれた3月定例市議会に関連の条例とともに上程されました。

光武顕市長は、総額827億5005万円の平成14年度一般会計当初予算案など50議案の提案理由を説明し、新年度の施政方針を語りました（当初予算の説明は5月号に掲載します）。

平成14年度施政方針（要旨）

市政推進の基本

平成14年度は、市制百周年という佐世保市にとりまして記念すべき歴史の節目となります。また、私にとりまして、平成7年4月の市長就任以来、2期目の仕上げの年になります。この間、市政を取り巻く内外の情勢は厳しいものがありました。住みたい街「佐世保」の実現に向けてまい進してまいりました。特に昨年は、アルカスS.A.S.E.B.Oのオープン、JR佐世保新駅の落成、ポートルネッサンス21計画の進捗がありました。駅や港周辺地域の変ぼうは、港町を一新し、訪れた人の心に佐世保への第一歩を強く印象付けるものと確信します。

国内の景気が厳しい中、本市財政は大幅な財源不足の状況にあります。一方では、地域経済の本格的な回復を図るための経済対策、ごみ減量化、廃棄物処理施設整備などの循環型社会の形成、少子・高齢社会への対応、駅周辺再開発などの都市の再生、教育・文化の充実、ITを活用した社会・経済活動の活性化、市制百周年記念事業などによる地域の活性化など多くの政策課題に適切に対処しなければなりません。

このため、地域の政策課題や新しい行政手法の導入など、政策効果が顕著なこれらの分野について重点的に推進することとし、歳出全体を厳しく見直し、歳出構造の質的改善に努めました。

重点的な施策

5つの「まちづくりの基本目標」と、それにつながる7つの柱を基調に推進していきます。

すべての人がいきいきと生活できる「暮らしづくり」

保健・医療・福祉の充実と地域づくり

高齢者施策は、介護保険などの事業成果やサービス目標に対する進捗よく状況を踏まえ、今後の計画策定に取り組みます。障害者施策は、平成15年度以降は措置制度から支援費制度へと移行するため、万全の体制で臨めるよう準備を進めます。育児と就業を両立させるための、子育て支援施策と子ども発達センターの充実に努めます。

さまざまな文化との出会いによる「人づくり」

教育・文化の充実

学校教育では、新学習指導要領に基づき、各学校の活性化を図るため、「特色ある学校づくり対策事業」や確かな学力の育成を目指す「学力充実実践事業」に積極的に取り組みます。

一方、正義感や倫理感、

思いやりの心など「生きる力」の核となる豊かな人間性を育むため、体験活動を重視した心の教育の推進に努めます。

また、児童生徒がコンピュータやインターネットを使って、さまざまな情報を活用できる能力の育成を目指します。

「佐世保市の教育を考える市民会議」を昨年10月に立ち上げましたが、平成15年2月をめぐりに提言をいただきます。

文化行政では、アルカスSASEBOをはじめとする文化施設などを活用しながら、芸術文化鑑賞機会の充実や文化創造活動の推進を図ります。

新たな価値を生み出す「仕事づくり」

地域経済の活性化

中小企業の経営安定やバランスの取れた産業構造への転換を支援する創造的技術開発支援事業や、制度融資の充実に努めます。また、企業誘致、観光の振興、緊急地域雇用創出事業などによる雇用の創出も図ります。本市の2大観光資源であるハウステンボスと九十九島を連携させながら、「観光宣伝の充実」観光資源の

活用、「観光基盤の整備・充実」を施策の柱として、佐世保観光の発展を目指します。

農業については、生産基盤の整備を図るとともに、省力化のための機械の導入や担い手の育成など、生産体制の強化に努め、併せて特産品の銘柄確立と販売体制の強化を図ります。

多彩な交流を支える「街づくり」

生活の安全確保

防災体制の充実強化のため、急傾斜地崩壊対策や河川改修などの防災事業の促進に努め、情報収集拠点としての消防通信指令センターなどの整備を図ります。自然環境の保全と生活環境の整備

環境教育の充実・自然と生活環境の保全・循環型社会の実現を図るため、監視指導の強化などの行政体制強化に努め、ごみや地球環境保全に対する意識の向上、不法投棄防止など、モラルの啓発に努めます。また、事業系ごみに重点を置いたごみ減量化・資源化の推進を図ります。

水資源については、中期対策としての下の原ダムのかさ上げを、平成18年度完

成を目指して取り組みます。

抜本的な解決策としては、石木ダム建設の推進を図っていかなければなりません。が、家屋移転を含め補償契約の締結をしている世帯もあり、地元住民の皆さまには十分配慮しながら、ご協力をお願いしていきます。

交通体系の整備と市街地・港づくり

西九州自動車道については、千代町から佐々町までの各区间で用地買収などが進められています。

ことし1月から西肥バスと市バスを含む県内本土のバス会社5社による全国初の共通ICバスカードシステムが導入されました。この事業が定着、拡大していくよう、関係自治体と共に支援していきます。

駅周辺再開発事業は、土地区画整理事業の平成15年度完成を目指しています。ポータルネットサンス21計画は、三浦地区における埋め立てもほぼ完了し、今後は平成17年春の完成に向けて本格的な土地基盤整備に入っていきます。

市民と共に築くまちづくり

市民参加と質の高い行政の実現

行政評価システムは、平成13年度の試行に引き続き、本格的な導入を図ります。情報化による行政事務の効率化と行政サービスの向上にも努めます。

市町村合併の機運が高まる中で、本市では任意協議会を設立し、検討を行うとともに、その内容については、市民の皆さまや議会のご意見を伺いながら進めていきます。

市制百周年記念事業は、「第22回全国豊かな海づくり大会」など、平成15年3月までの1年間で、さまざまなイベントを展開し、市民総参加で祝っていただきたいと思えます。

基地問題

前畑弾薬庫の移転・返還をはじめとする新返還6項目の推進と、これらのことを含む佐世保港のすみ分けに関しては、最優先事項の一つとして取り組んでいきます。平成14年度の政府予算案には、ジュリエット・ベースンでの新たな岸壁整備にかかわる設計経費と、佐世保地区の移転集約構想にかかわる調査費などが盛り込まれました。市では、国、県と連携を図りながら推進していきたいと思えます。